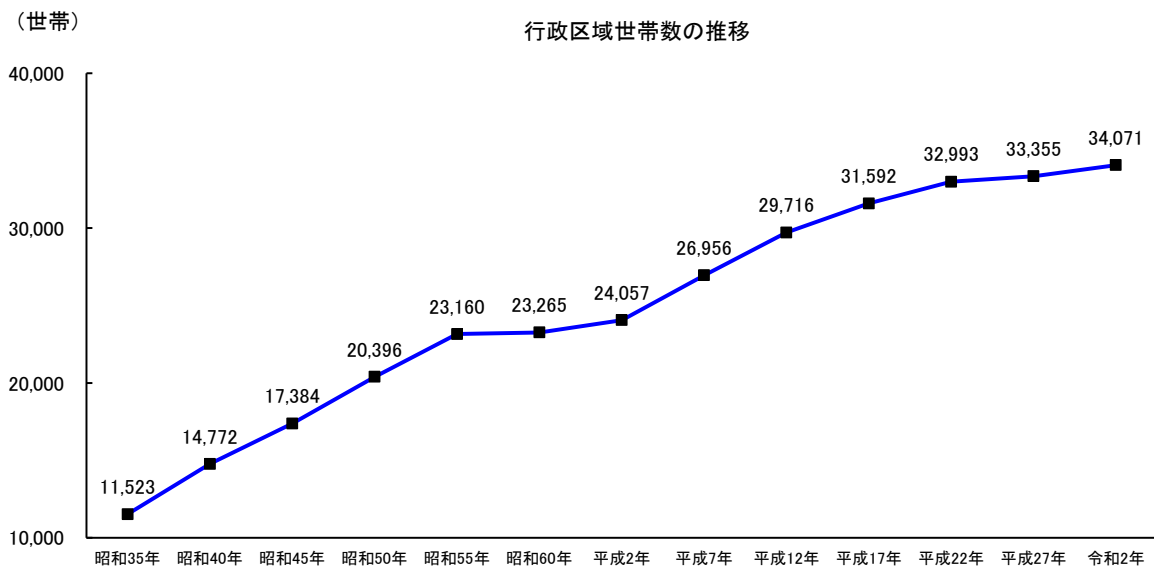
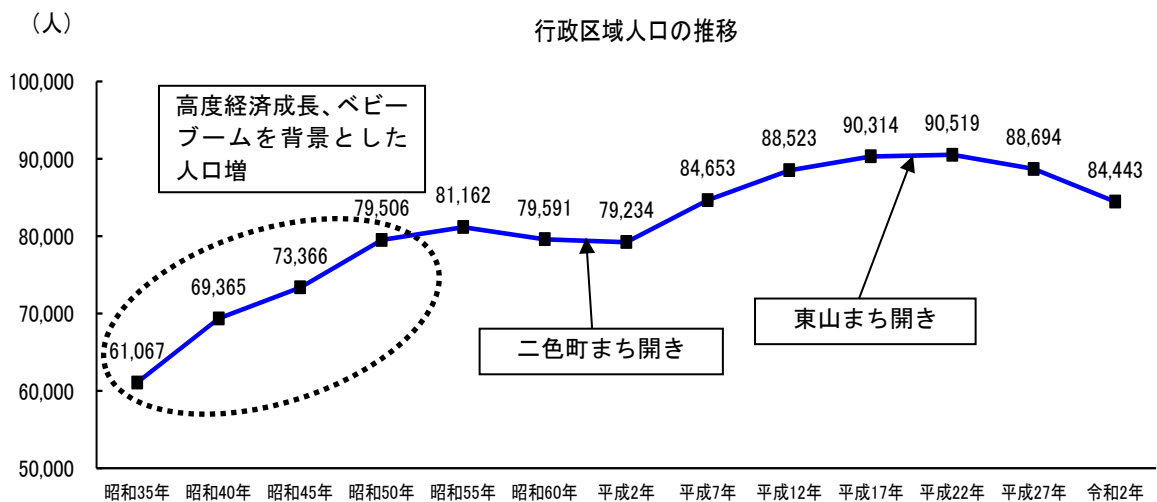


(2) 人口・世帯

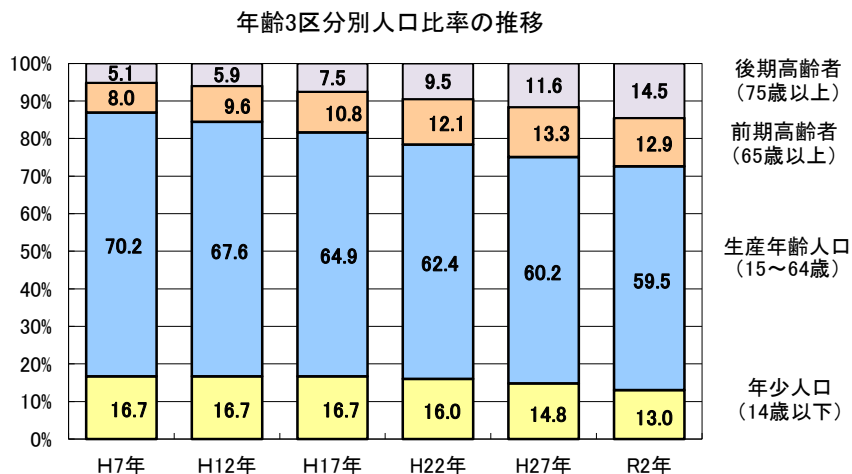
1) 人口・世帯の推移

- ・ 高度成長期等を背景に、昭和 55（1980）年まで人口は増加傾向にありましたが、その後、減少、増加傾向を示していたものの、5 年毎の国勢調査では、平成 22（2010）年をピークに再び減少傾向に転じ、令和 2（2020）年 10 月 1 日現在の人口（国勢調査）は 84,443 人となっています。
- ・ 世帯数は増加傾向にあります。以前よりその伸びは鈍化しています。



2) 年齢別人口の推移

- ・平成7（1995）年からの年齢3区分別人口比率の推移をみると、少子高齢化が著しく進行しています。
- ・年少人口（0～14歳）比率は、平成7（1995）年16.7%から令和2（2020）年13.0%と約4ポイント減少しています。
- ・65歳以上の老年人口比率は増加しており、特に後期高齢者の増加が著しく、平成7（1995）年5.1%から令和2（2020）年14.5%と約9ポイントと大きく増加しています。

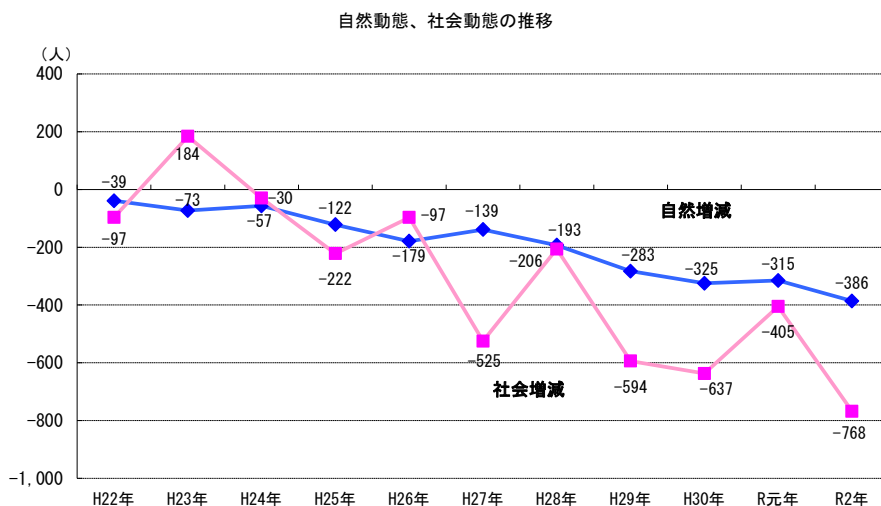


資料：国勢調査（総務省）

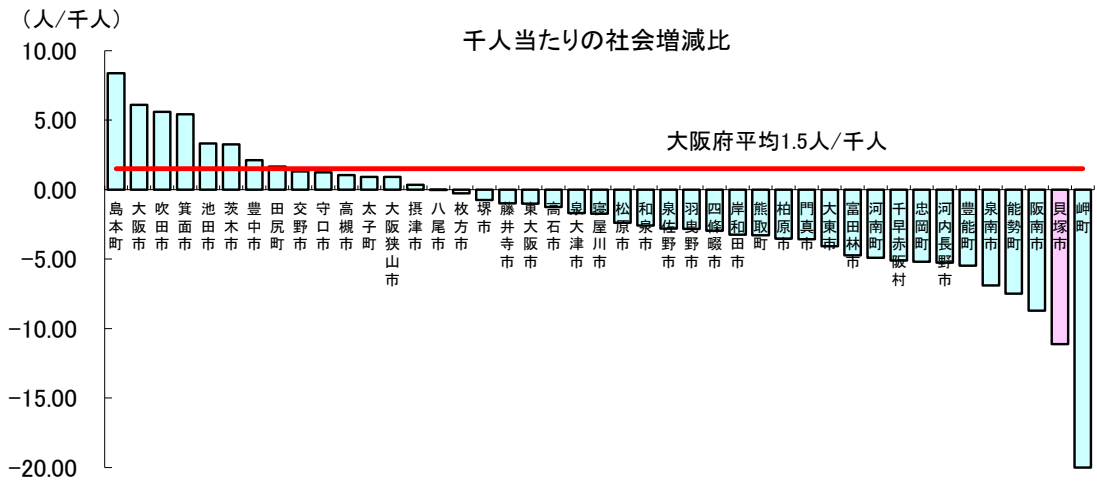
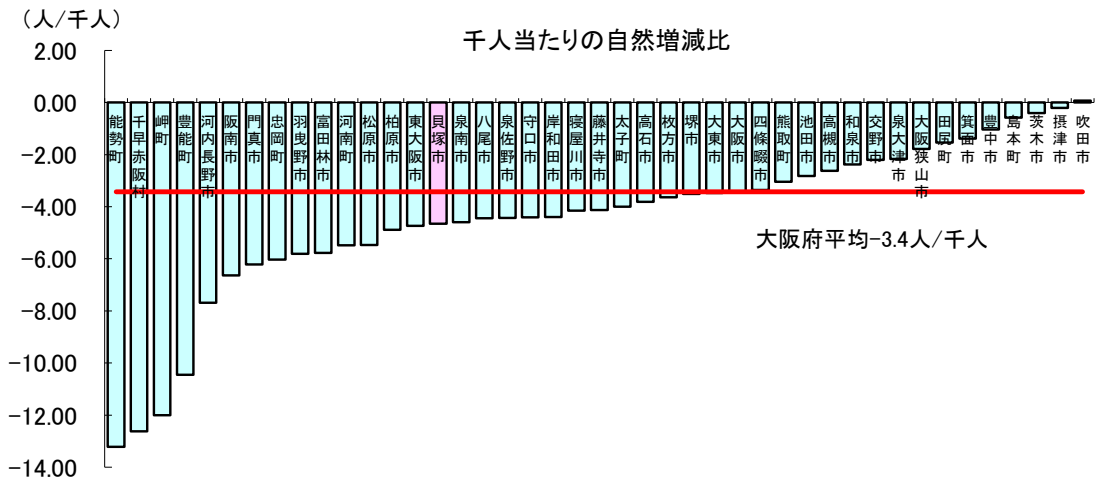
注：年齢不詳を除く（合計が100%とならない場合がある）

3) 人口動態の推移

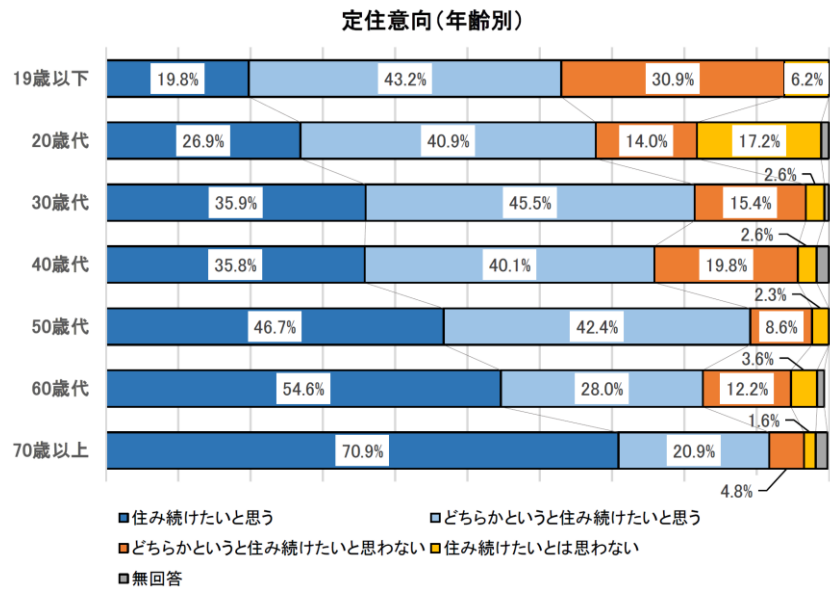
- ・自然増減（出生-死亡）は死亡数が出生数を上回っており、年々減少数が大きくなっています。また、「統計でみる市町村のすがた」においては、令和2（2020）年の自然増減比は人口1,000人あたり△4.7人となっており、府下平均△3.4人を下回っています。
- ・社会増減（転入-転出）も転出数が転入数を上回っており、令和2（2020）年では768人で年々転出超過は増加傾向にあります。また、「統計でみる市町村のすがた」においては、令和2（2020）年の社会増減比は人口1,000人あたり△11.1人で、府下43市町村中42位となっています。
- ・第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための市民アンケート調査では、40代以下の定住意向(住み続けたいと思う)は5割を大きく下回っています。



資料：住民基本台帳人口及び外国人登録人口



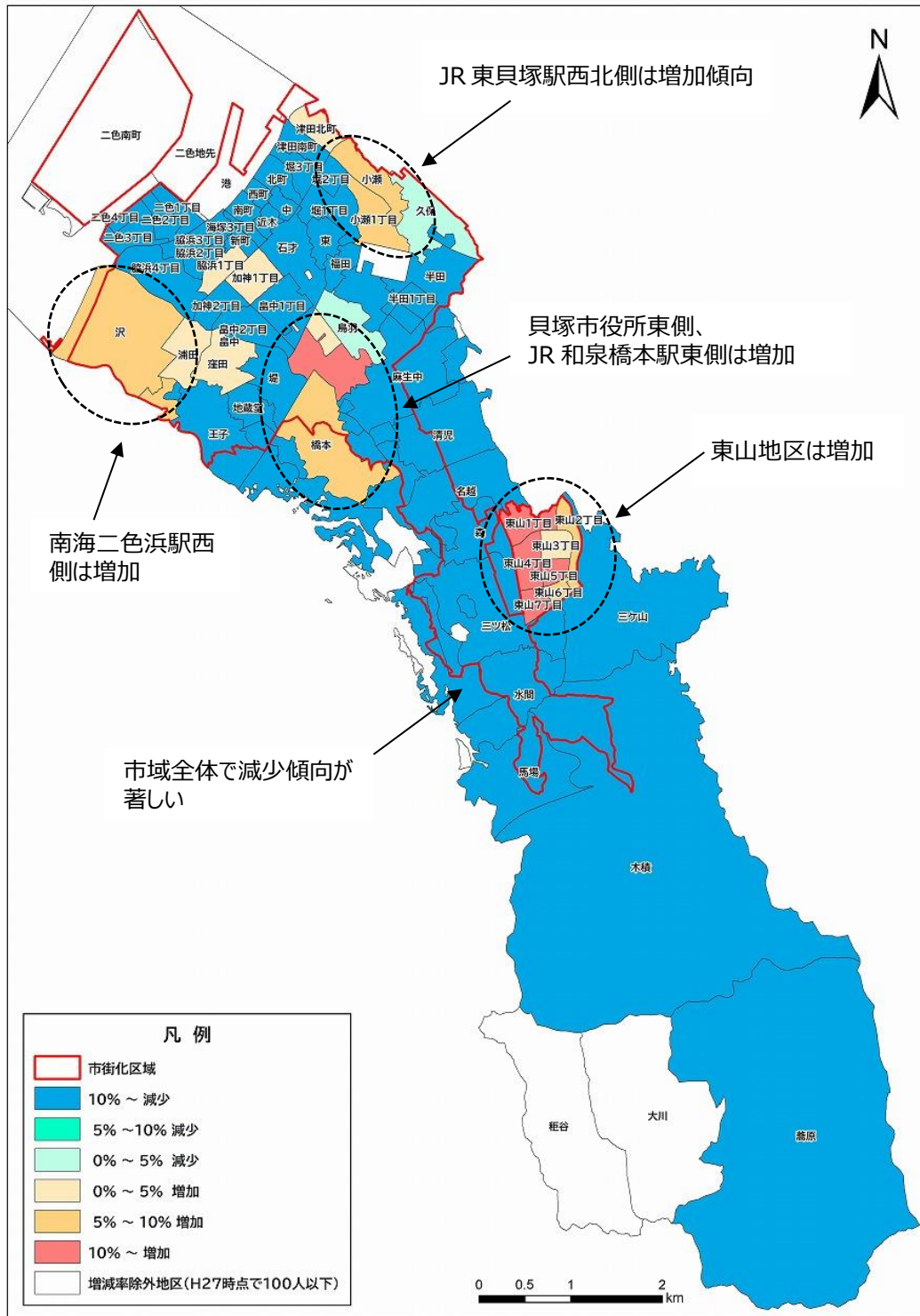
資料：「統計でみる市区町村のすがた（2020年）」（総務省）



資料：第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定のための市民アンケート調査結果報告書（令和2年2月）

4) 地区別人口・世帯の推移

- ・平成 27（2015）年から令和 2（2020）年の地区別人口の推移は、市全域において、減少地区が多くみられます。
- ・その中において、貝塚市役所東側周辺や東山地区で増加率が 10%を超える地区がみられます。
- ・その他、JR 東貝塚駅西北側、南海二色浜駅西側、JR 和泉橋本駅東側は、増加傾向にあります。



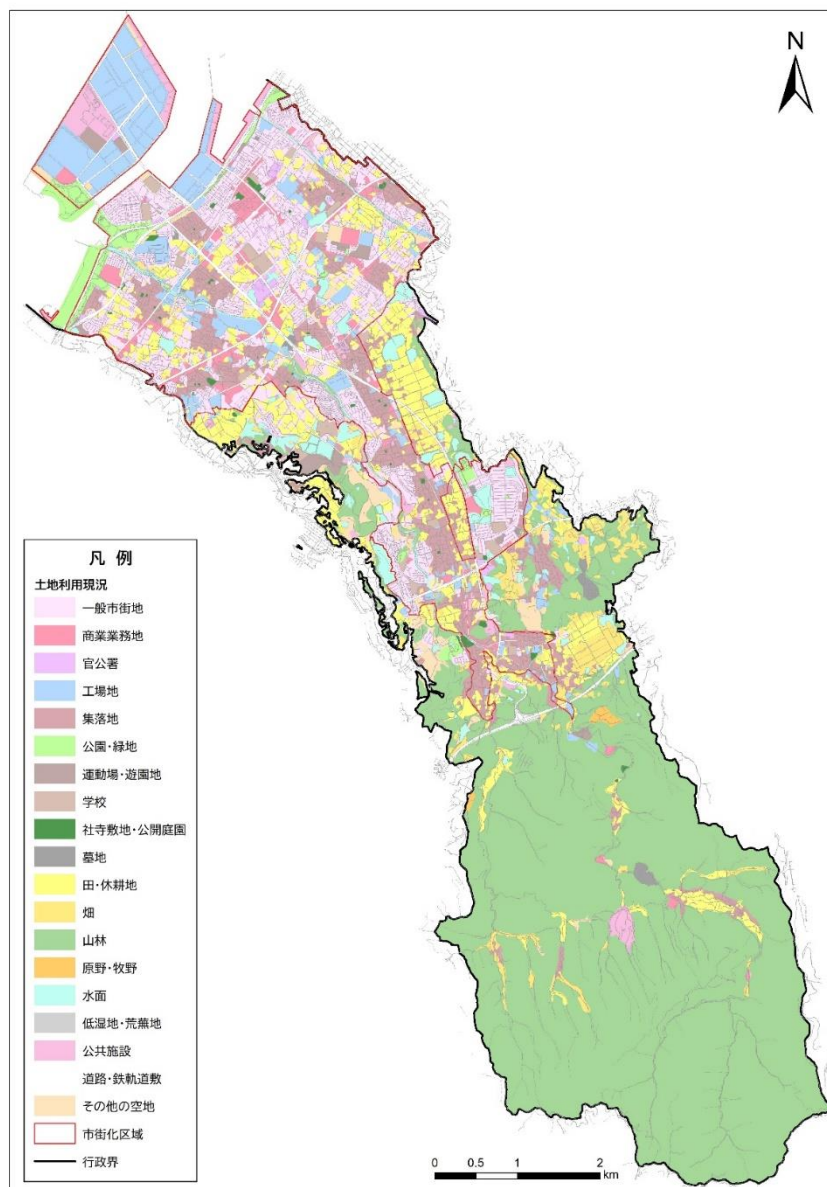
地区別人口増減率図（平成 27 年～令和 2 年）

注：地区境界および人口は、国勢調査（総務省）の小地域を用いている

(3) 土地利用

1) 土地利用及び建物の状況

- ・ 令和 2（2020）年度における土地利用面積割合は、市街化区域で「市街地」が当該区域の 66.4%、「その他（山林・原野・道路等）」が 16.2%、「農地」が 10.8%、「空地等」が 6.6%で、平成 22（2010）年度調査と比較し、「市街地」、「その他」が増加、「農地」が減少しています。
- ・ 市街化調整区域では、「市街地」が当該区域の 5.8%で、「その他（山林・原野・道路等）」が 79.5%、「農地」が 13.2%、「空地等」が 1.5%で、それぞれ、ほぼ横ばいの傾向にあります。
- ・ 市街化区域内の工業系用途地域においては、ユニチカやテザックなどの大規模工場の跡地が商業施設や住宅地に転換されています。
- ・ 市街化調整区域は概ね農業振興地域に指定されていますが、幹線道路の結節点やせんごくの杜など、地域活性化に資する資源等を有する地区がみられます。
- ・ 都市計画法に基づく市街化区域における開発許可が、平成 24（2012）年度に大阪府から市に移譲され、本市の実情に応じた運用を行っています。



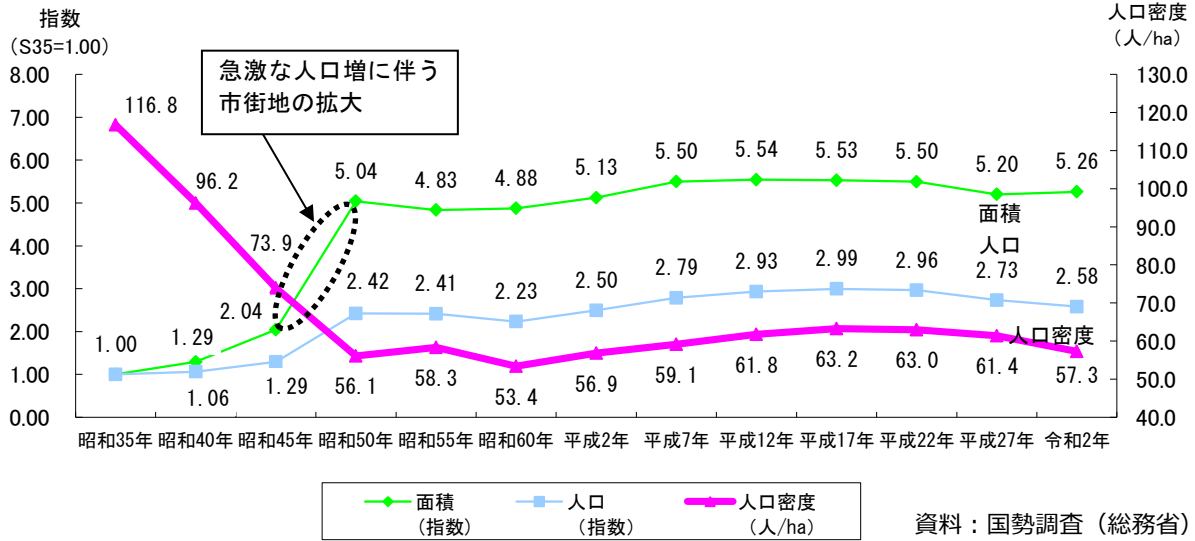
土地利用現況図

資料：令和 2 年度都市計画基礎調査

2) 市街化の進展状況

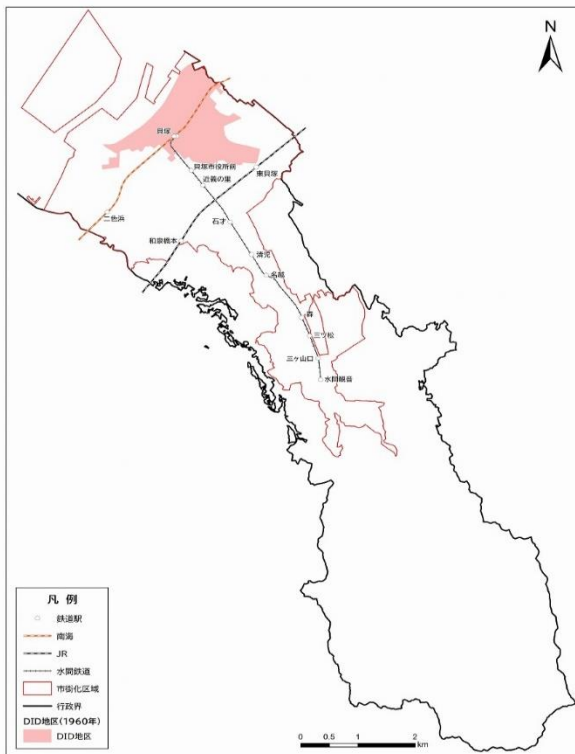
- ・人口集中地区（DID 地区）は、昭和 35（1960）年時点では南海貝塚駅周辺のみでしたが、20 年後の昭和 55（1980）年には、浜手や水鉄水間観音駅付近などで拡大したものの、令和 2（2020）年には水鉄水間観音駅周辺が地区から外れています。
- ・DID 地区人口は、昭和 45（1970）年から昭和 50（1975）年にかけて大きく増加し、以後増減を繰り返し、平成 22（2010）年以降は減少傾向にあります。
- ・平成 27（2015）年から令和 2（2020）年で面積は増加し、人口密度は 61.4 人/ha から 57.3 人/ha とわずかに減少しています。

人口集中地区の推移

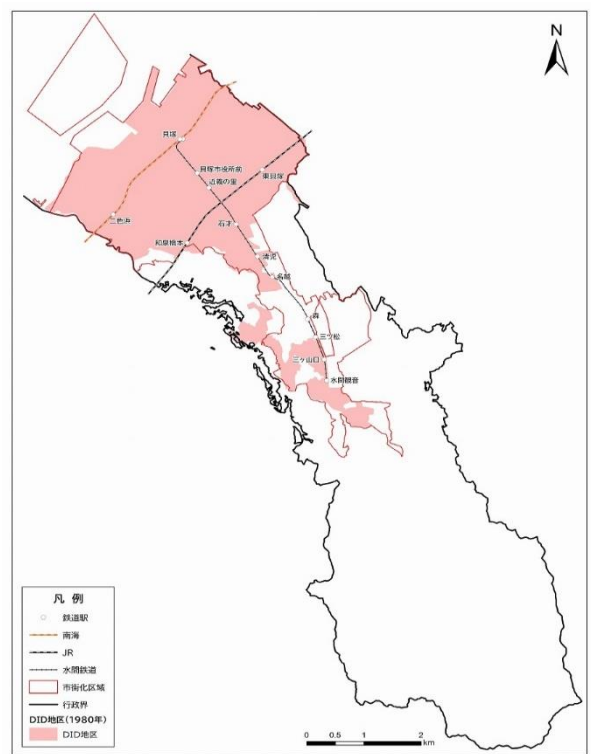


※人口集中地区：国が実施する国勢調査で設定されているもので、以下を条件としている。

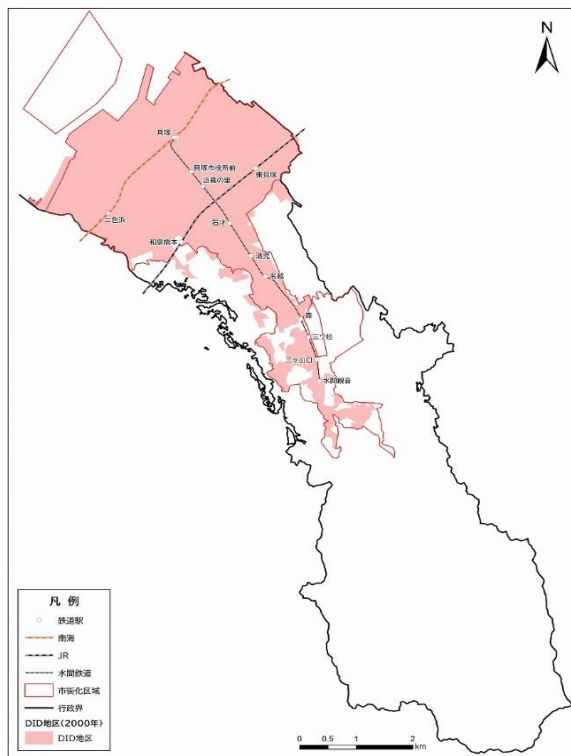
- (1) 国勢調査基本単位区を基礎単位地域とする。
- (2) 市区町村の境界内で人口密度が 4,000 人/k² 以上の基本単位区が互いに隣接して、人口が 5,000 人以上を有する。



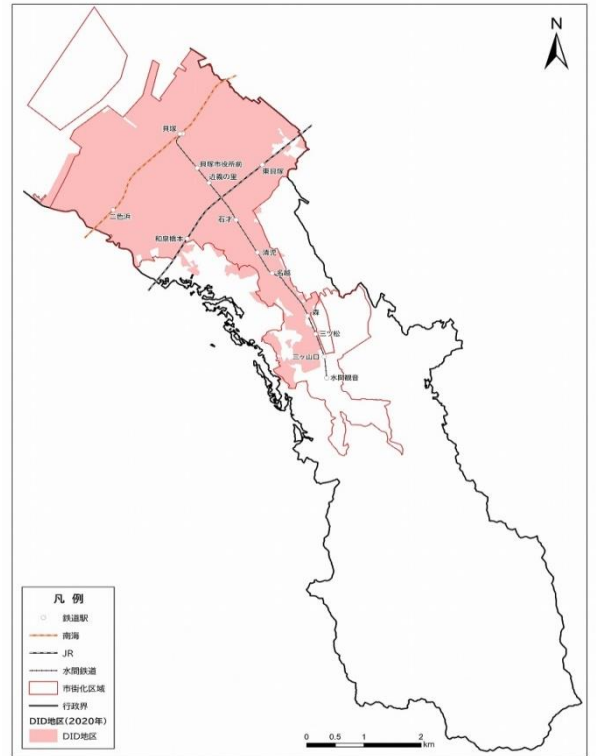
昭和 35（1960）年



昭和 55（1980）年



平成 12 (2000) 年



令和 2 (2020) 年

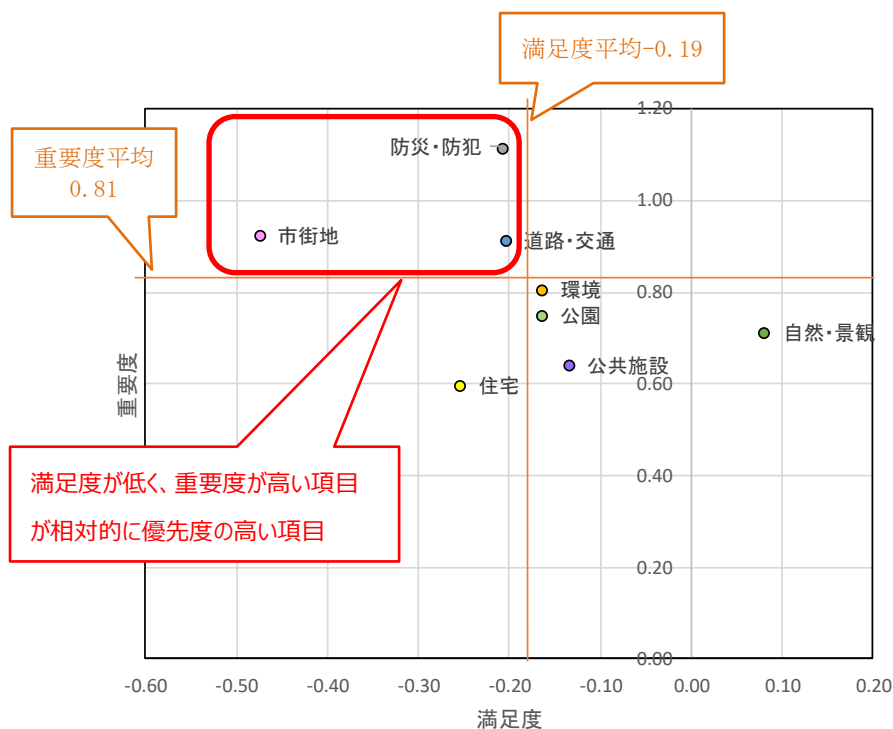
図 人口集中地区 (DID 地区) の変遷

資料：国勢調査 (総務省)

注：令和 2 年国勢調査で、二色の浜産業団地・港湾用地等の区域が DID 地区に含まれたが、人口に変化がないため、DID 地区から除外した。

(4) 市民意向 (満足度・重要度の分析)

- 令和 3 (2021) 年 12 月に実施した市民アンケート調査 (以後、「市民アンケート」という。) において、まちづくりにおける現状の満足度とこれからの重要度について分析を行っています。
- 分析の結果、満足度が低く重要度が高い、優先度の高い取組みとして“防災・防犯”、“道路・交通”、“市街地”があげられます。
- “市街地”については、満足度が他の取組みと比較して相当低い結果となっています。



上図は、満足度、重要度に 2 点～-2 点の評価点を付与し、評価点の平均から散布図を整理したものです。

満足・とても重要	+2 点
ほぼ満足・重要	+1 点
どちらともいえない	0 点
やや不満・あまり重要でない	-1 点
不満・重要でない	-2 点

2. 都市づくりの課題

(1) 生活・交通環境の特性と課題

1) 住環境について

本市の持ち家住宅は、1住宅当たりの延べ床面積約95㎡と府下で高い水準にあります。また、都市公園等は、市民一人当たりの整備面積が8.16㎡/人と府下で比較的高い水準にありますが、「貝塚市都市公園条例」に定める住民一人当たりの都市公園面積の標準（10㎡）を下回っています。また、下水道普及率（行政区人口に対する整備人口の割合）は66.0%と府下では低い水準にあります。

また、市民アンケートでは、住宅の満足度について、全体に不満足向（不満・やや不満）が多く、“空き家住宅の活用など中古住宅の流通促進”が特に多くなっています。

重要意向（とても重要・重要）は、“空き家住宅の活用など中古住宅の流通促進”、“高齢者や障害者向けリフォームの支援”が特に多くなっています。

また、公園の満足度についても、全体に不満足向が多く、“子どもの遊び場などが充実した公園の整備”、“高齢者が余暇活動を楽しめる公園の整備”、“スポーツ、ジョギングなどができる公園の整備”が特に多くなっています。

重要意向は、“子どもの遊び場などが充実した公園の整備”、“火災延焼防止や避難地となる公園の整備”が特に多くなっています。

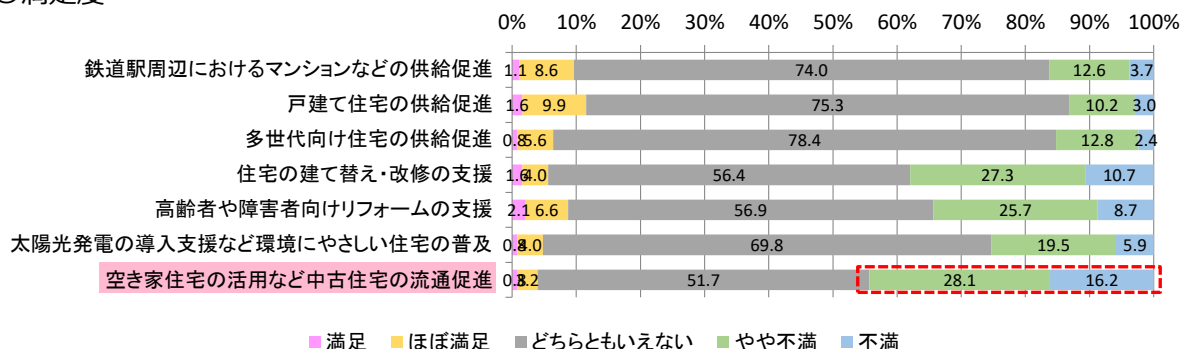
定住意向を第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための市民アンケート調査でみると、40代以下は低くなっています。



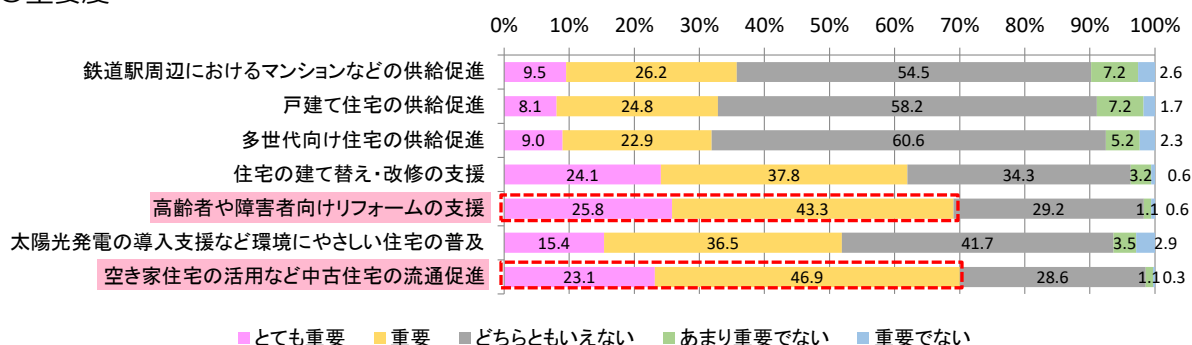
再利用可能な空き家住宅

■ 住宅の取組みについて（市民アンケート）

○ 満足度

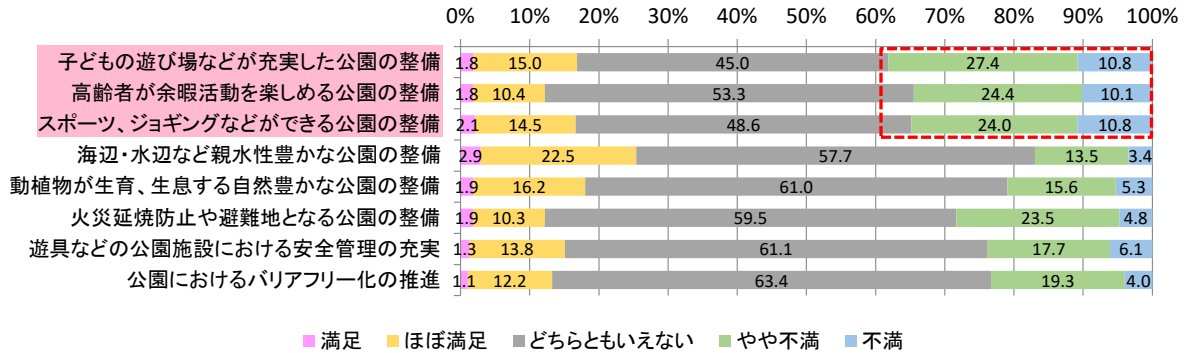


○ 重要度

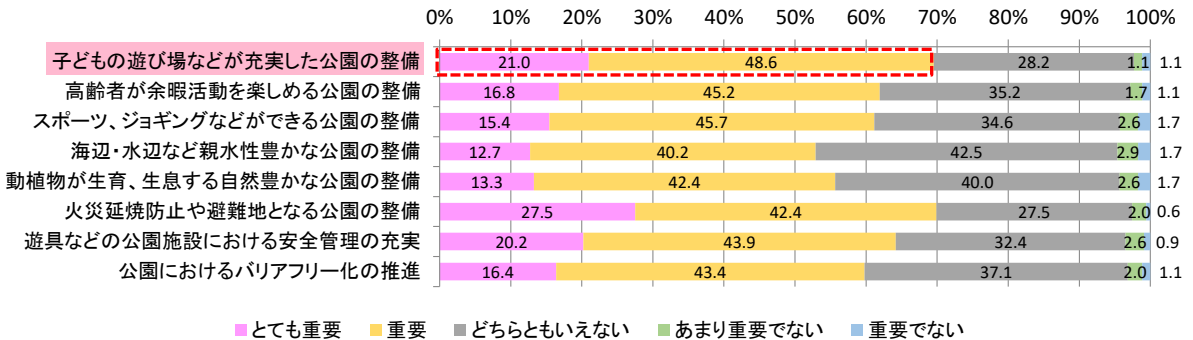


■ 公園の取組みについて（市民アンケート）

○ 満足度



○ 重要度



項目別課題（1）1） 住みよい住環境の形成

空き家対策や暮らしやすい居住環境の維持・向上とともに、レクリエーション機能や防災機能等を有する公園など、公民連携による都市基盤整備や施設の維持管理等により、住みよい住環境を形成するとともに、子育て世代の定住化に取り組む必要があります。

2) 交通環境について

本市では、自動車専用道路である阪神高速湾岸線、阪和自動車道、主要幹線道路である大阪臨海線、国道 26 号、大阪外環状線などが整備されています。これら自動車専用道路や主要幹線道路は比較的充足しています。

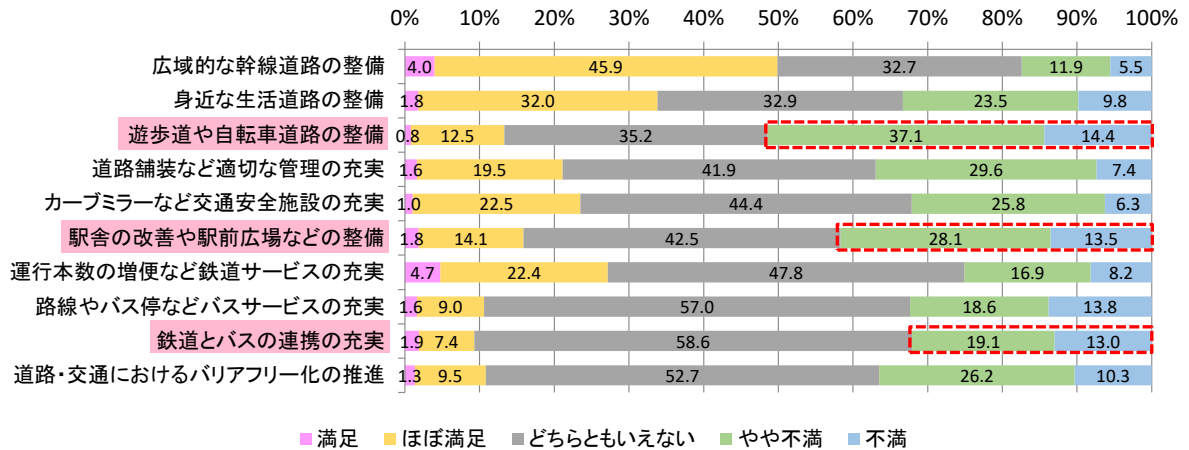
しかしながら、計画的に開発された市街地以外の既成市街地等では概ね幅員 4 m 未満の生活道路が比較的多くみられます。

また、鉄道は南海本線、JR 阪和線、水間鉄道が通り、福祉型コミュニティバス（は～もに～ばす）と水鉄バスがこれら鉄道の主要駅等に連絡し、市民の日常生活に欠かせない交通手段となっていますが、バス利用者は比較的少ない状況です。

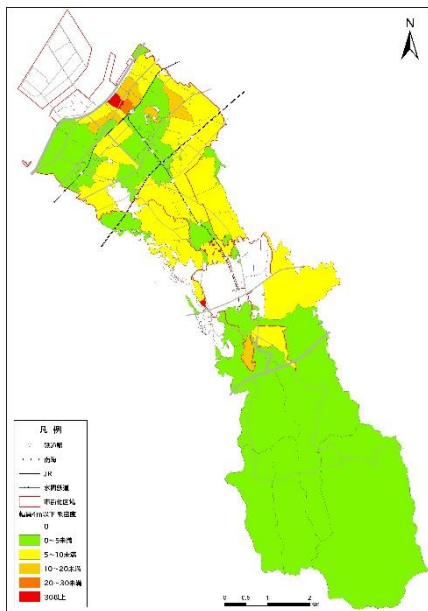
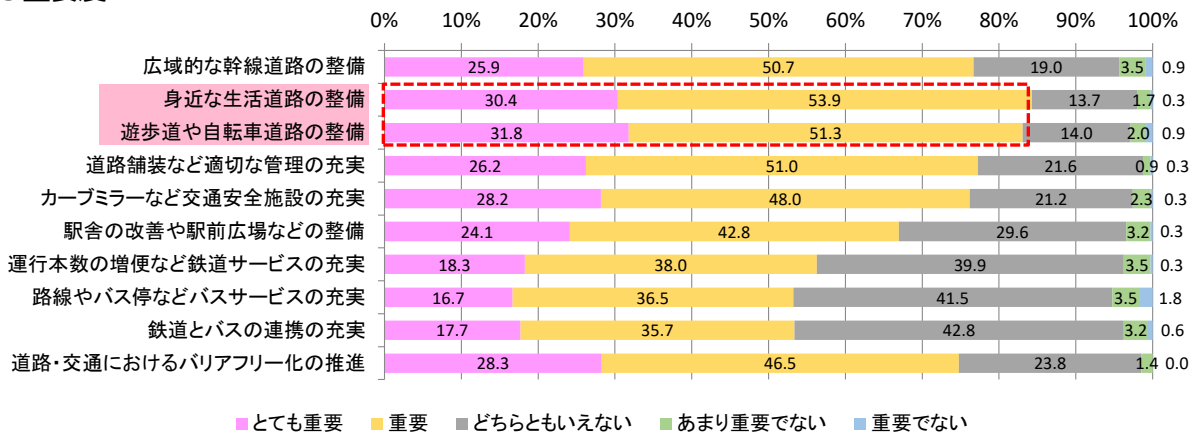
市民アンケートでは、道路・交通の満足度について、全体に不満足向が多く、“遊歩道や自転車道路の整備”が特に多くなっています。重要意向は、“身近な生活道路の整備”、“遊歩道や自転車道路の整備”等が特に多くなっています。公共交通の不満足向は、“駅舎の改善や駅前広場などの整備”が特に多くなっています。重要度の意向は、“身近な生活道路の整備”、“遊歩道や自転車道路の整備”等が特に多くなっています。道路・交通は、満足度と重要度のクロス分析から優先度の高い項目（優先項目）としてあげられます。

■ 道路・交通の取組みについて（市民アンケート）

○ 満足度



○ 重要度



幅員 4m 未満道路密度図

資料：令和 2 年度都市計画基礎調査

注 1：4m 未満道路延長/町丁目区域区分別面積 (km/km²)

注 2：「0」（白色）は幅員 4m 未満の道路がない地区

項目別課題（1）2） 便利で快適な交通環境の維持・向上

高齢化等の進行に対応し、歩行者を優先した歩きたくなるまちづくりや、鉄道・バス等の公共交通の充実など、便利で快適な交通環境の維持・向上に取り組む必要があります。

3) 防災等について

近年、地震や豪雨等の自然災害が頻発化、激甚化しています。

近木川等の河川沿いの一部は、河川が氾濫した場合に浸水が想定される浸水想定区域として指定されています。

また、山地・丘陵地の一部は、土砂災害（特別）警戒区域等に指定されています。さらに、南海貝塚駅周辺では、密集市街地に相当する区域があり、地震・火災等の発生時において大きな被害を招く恐れがあります。

こうした災害の未然防止や被害の軽減を図るため、密集市街地の改善や防火地域・準防火地域の拡大、津波や洪水浸水、土砂災害等に対する防災意識の啓発等が求められています。



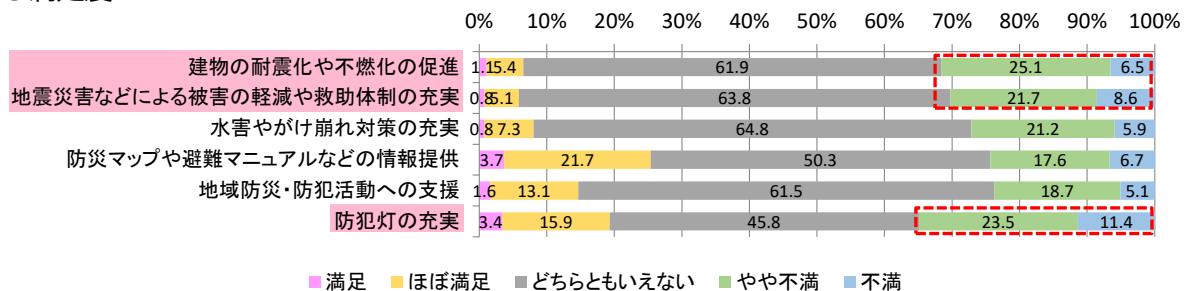
市民アンケートでは、防災・防犯の不満足向について、“防犯灯の充実”が特に多く、防災については、“建物の耐震化や不燃化の促進”、“地震災害などによる被害の軽減や救助体制の充実”等も多くなっています。

重要意向は、“防犯灯の充実”が特に多く、“地震災害などによる被害の軽減や救助体制の充実”、“水害やがけ崩れ対策の充実”、“防災マップや避難マニュアルなどの情報提供”等も多くなっています。

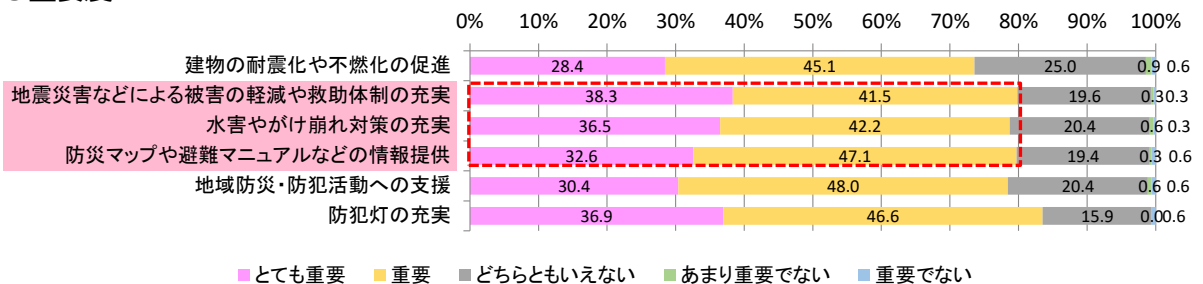
防災・防犯は、満足度と重要度のクロス分析から優先項目としてあげられています。

■ 防災・防犯の取組みについて（市民アンケート）

○満足度



○重要度



項目別課題（1）3）安全で安心な市民生活の確保

災害リスクの低い地域への居住の誘導や、円滑かつ迅速な避難のために必要な対策とともに、防犯に取り組むなど、安全で安心な市民生活を確保する必要があります。

【（１）生活・交通環境に係る項目別課題】

- 1) 住みよい住環境の形成
- 2) 便利で快適な交通環境の維持・向上
- 3) 安全で安心な市民生活の確保



課題（１）質の高い生活環境の確保

（２）商工業、観光の特性と課題

1) 商業について

本市では、南海貝塚駅周辺で中心商業地、その他鉄道駅周辺で地域商業地が形成されています。人口が減少傾向にあるなか、平成 28（2016）年までの小売商業の状況をみると、事業所は減少傾向にあるものの、人口一人当たりの年間商品販売額は、大阪府平均と同様に増加傾向が続いています。

市民アンケートでは、定住促進に必要な施策について、“買い物物の利便性”が突出して多くなっています。

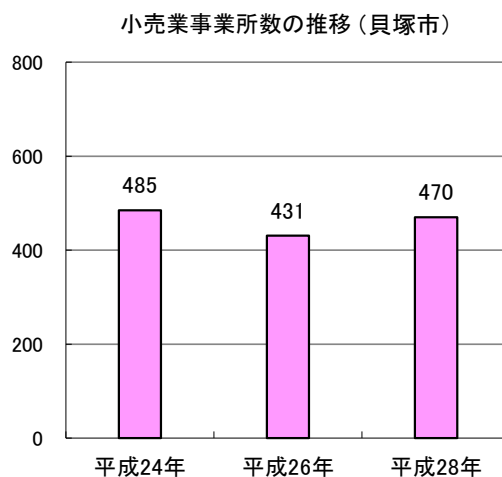
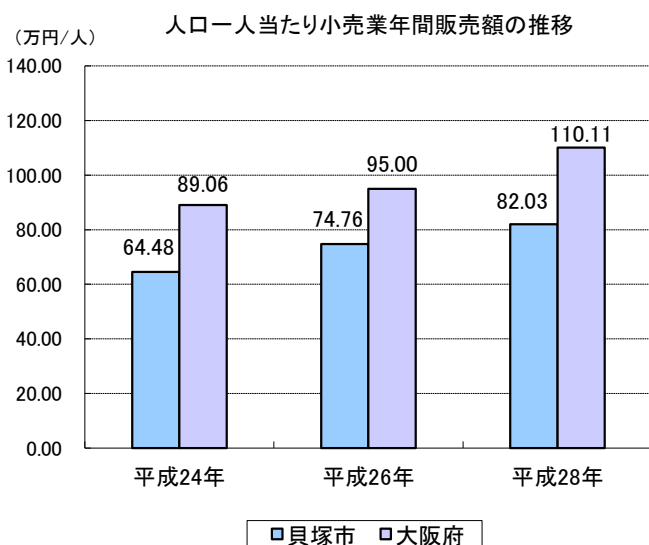
また、市街地の不満意向は、“南海貝塚駅周辺の中心商業地の再生”、“その他鉄道駅周辺の商店街の再生”等が特に多くなっています。

重要意向は、“南海貝塚駅周辺の中心商業地の再生”、“その他鉄道駅周辺の商店街の再生”、“身近な店舗の充実”とともに、“災害の危険性の高い市街地の改善”が特に多くなっています。

市街地は、満足度と重要度のクロス分析から最優先項目としてあげられています。

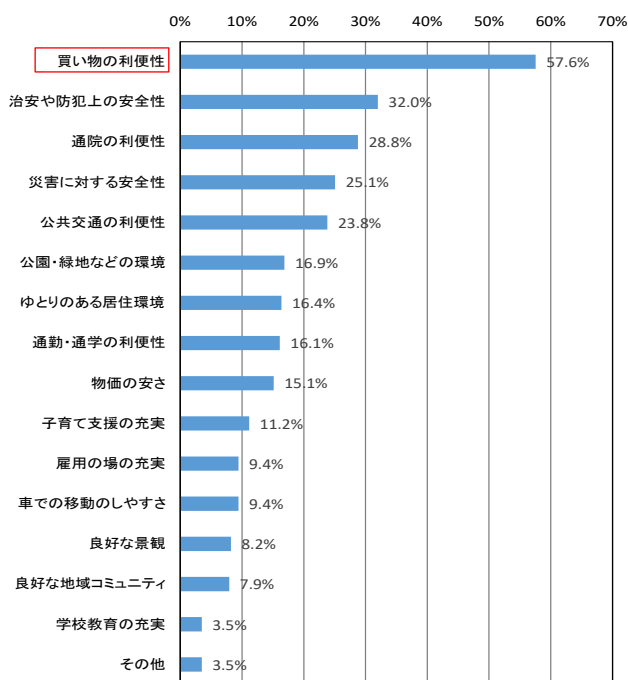


南海貝塚駅周辺の商店街



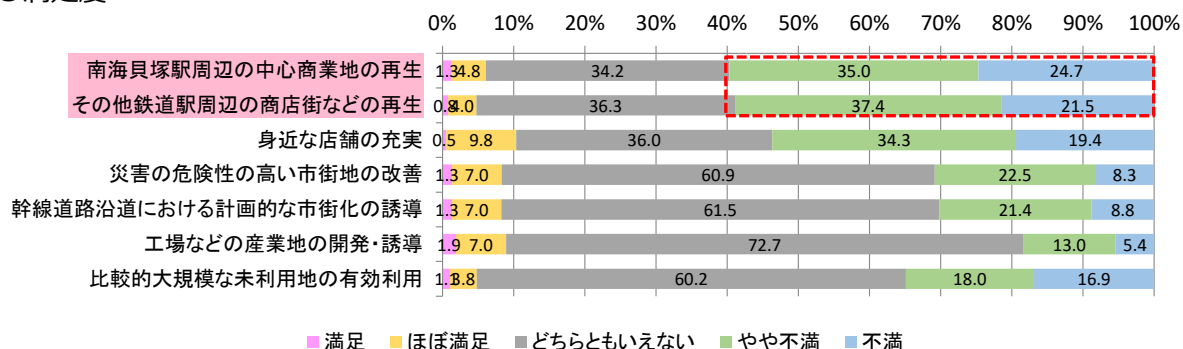
注：令和 3 年は令和 5 年 3 月に公表予定
 （H28 年から 5 年毎に実施）
 資料：経済センサス（経済産業省）

■ 定住促進に必要な施策について（市民アンケート）

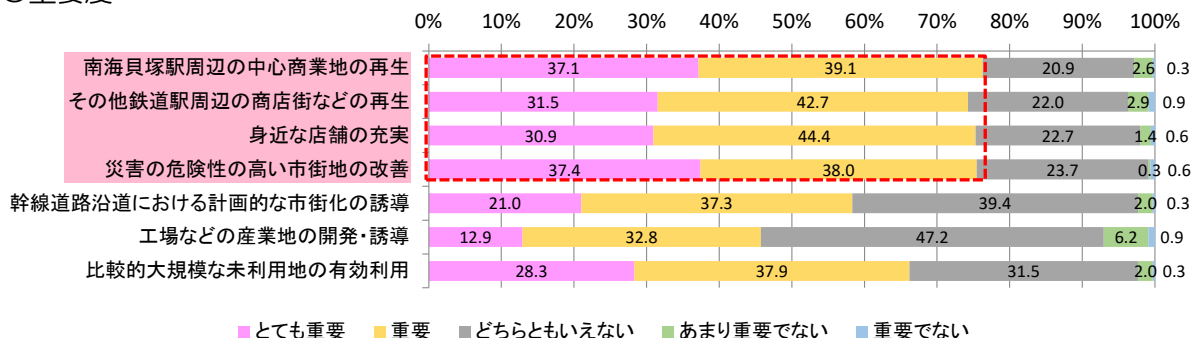


■ 市街地の取組みについて（市民アンケート）

○ 満足度



○ 重要度



項目別課題（2）1） 利便性の高い賑わいのあるまちの顔づくり

南海貝塚駅周辺やその他駅周辺等においては、市街地の改善とあわせて、各種生活サービス機能の維持・充実等に取り組み、利便性の高い賑わいのある滞在型の拠点空間(まちの顔)を形成する必要があります。

2) 工業について

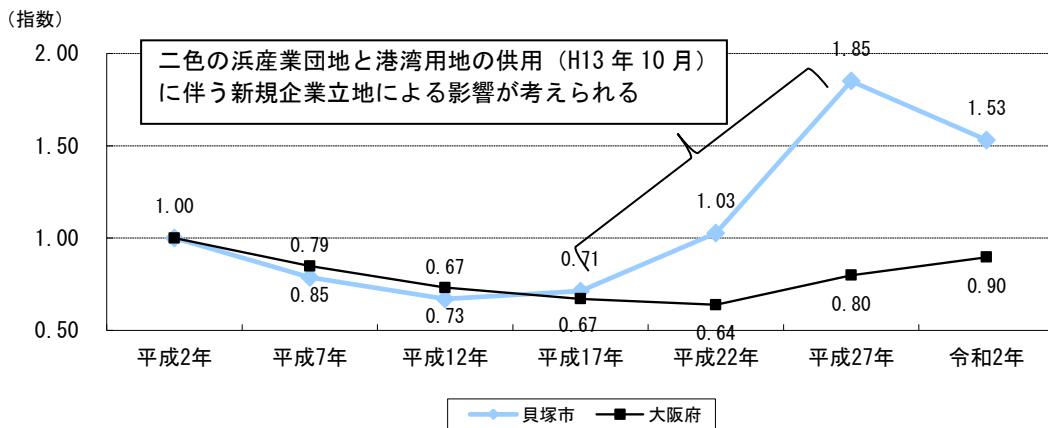
本市の工業は、二色の浜産業団地など産業集積促進地域への企業進出により、年間製造品出荷額等は大きな伸びをみせていましたが、その後減少傾向にあります。工業の低迷は、地域経済の活性化や雇用の場の確保とともに、税収にも大きく影響を及ぼします。



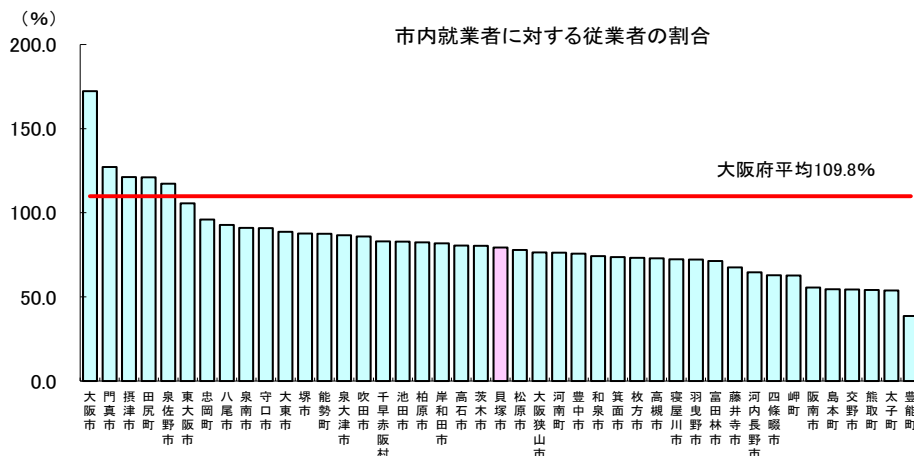
二色の浜産業団地

市内在住の就業者に対する市内で働く従業員の割合をみると、近隣の泉佐野市は117.3%と、市内で働く従業員が市内在住の就業者を上回っており、働く場が市内に多いことがうかがえます。一方、本市は、79.3%と市内で働く従業員が市内在住の就業者を下回っており、働く場が市内に少ないことがうかがえ、ベッドタウンとしての性格を有しています。

製造品出荷額等の推移(平成2年=1.00)



資料：工業統計調査（大阪府）



資料：「統計でみる市区町村のすがた（2020年）」（総務省）

項目別課題（2）2）新たな産業の振興

本市で働く従業員を増加させるため、既存工場等における操業環境の維持・向上を図るとともに、関西国際空港へのアクセスの容易性や広域幹線道路が充実した有利な交通条件を活用し、流通関連施設など新たな産業用地の確保等により、公民が連携して産業の持続的発展に取り組む必要があります。

3) 観光について

本市には、和泉葛城山系をはじめ、神社仏閣（願泉寺、孝恩寺、水間寺、感田神社、道陸神社）、公園（二色の浜公園、水間公園）、自然体験施設等（自然遊学館、かいづか いぶき温泉、大阪府立農業公園（かいづか いぶきヴィレッジ）、善兵衛ランド）、企業施設（明治ヨーグルト館）等の地域資源があり、このうち主要な観光施設への来訪者数は、近年 160 万人程度となっています。

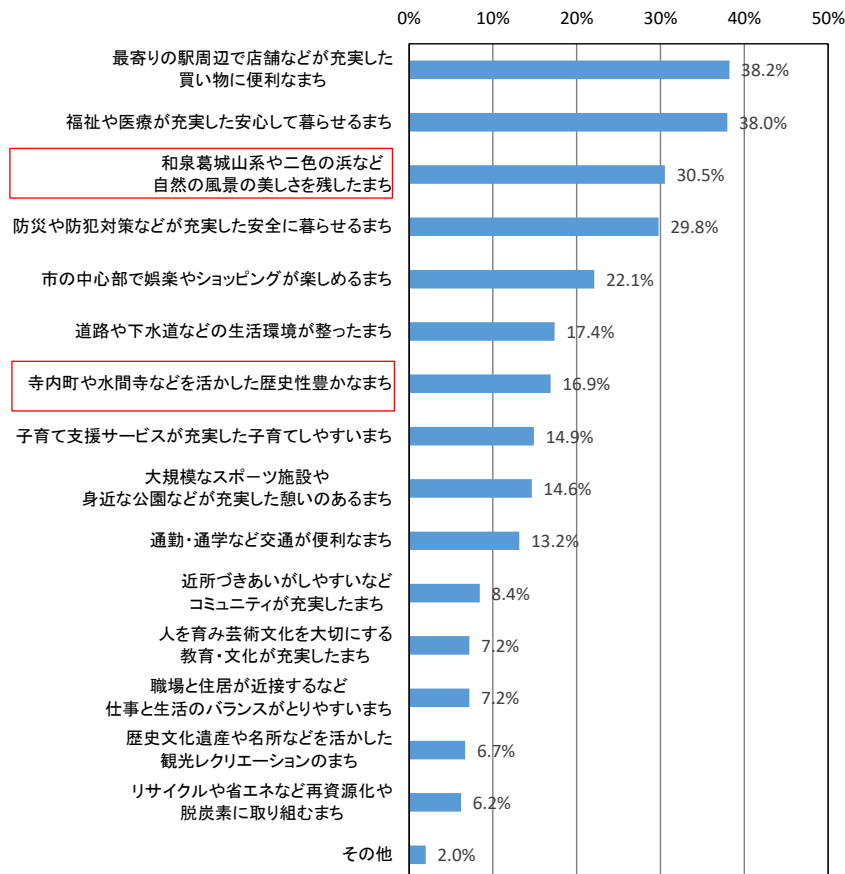
また、近隣の泉南市や泉佐野市等には、特色のある観光・レクリエーション施設等が整備されており、こうした施設との連携により、本市への誘客メリットが高まり、観光客など交流人口の増加が見込まれます。

市民アンケートでは、市の将来像について、“和泉葛城山系や二色の浜など自然の風景の美しさを残したまち”、“寺内町や水間寺などを活かした歴史性豊かなまち”も多くなっています。



水間寺の春景色

■ 市の将来像について（市民アンケート）



項目別課題（2）3） 広域連携による観光・交流の推進

人口減少を抑制し、地域の活力を維持するためには、近隣市町との連携や、個性豊かな観光・レクリエーション資源を磨き上げ、交流人口・関係人口や定住人口の増加につなげていく必要があります。

【（２）商工業、観光に係る項目別課題】

- 1) 利便性の高い賑わいのあるまちの顔づくり
- 2) 新たな産業の振興
- 3) 広域連携による観光・交流の推進



課題（２）都市の賑わいと活力の創出

（３）地域資源・地域環境の特性と課題

1) 自然や歴史的資源について

本市山間部では、和泉葛城山系が金剛生駒国定公園及び近郊緑地保全区域に指定されているとともに、臨海部では自然海浜である二色の浜が位置し、近木川が本市中央を流れています。近木川河口では、生態系の保全や環境教育の場として、地域との協働により、河口干潟（汽水ワンド）の保全と活用に取り組んでいます。

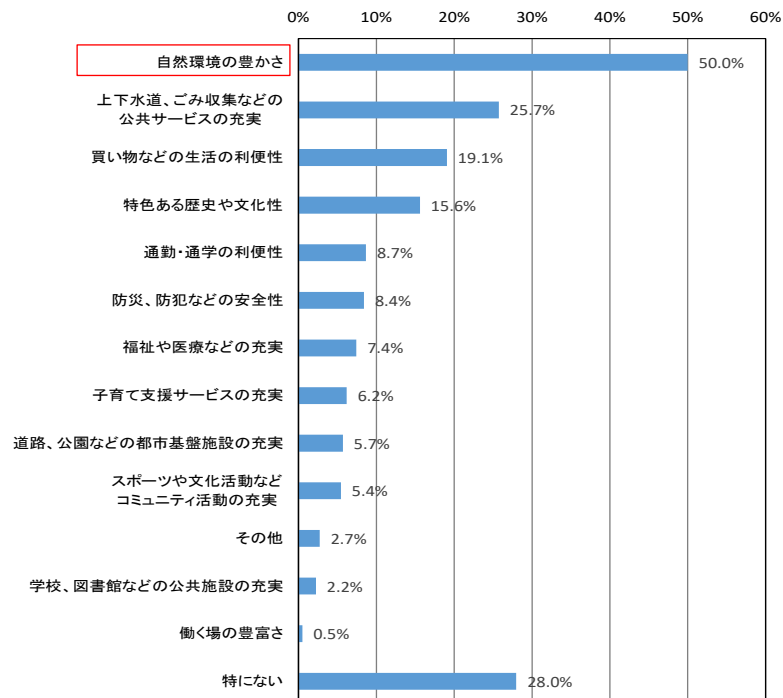
また、本市の中心部である南海貝塚駅周辺では、願泉寺を含む寺内町の歴史的街並みが残されているとともに、市内には水間寺など多くの歴史的資源が分布しています。

市民アンケートでは、市の魅力について“自然環境の豊かさ”が突出して多くなっています。



自然海浜である二色の浜

■ 貝塚市の魅力について（市民アンケート）



項目別課題（３）１） 自然環境や歴史的資源の保全と活用

豊かな自然や歴史的資源の保全と活用により、市民が愛着と誇りを持てるよう、貝塚市の魅力を更に高めていく必要があります。

2) 景観について

平成 16（2004）年度に景観法が施行され、大阪府景観計画（大阪府景観条例）において、本市では大阪湾岸区域、国道 26 号沿道及び大阪外環状線（国道 170 号）沿道区域、金剛・和泉葛城山系区域が景観計画区域に指定され、それぞれの特性に応じて景観形成基準が定められています。

また、本市では、和泉葛城山系の身近な自然景観、二色の浜では海浜景観、願泉寺・水間寺周辺などでは歴史景観などが形成されています。



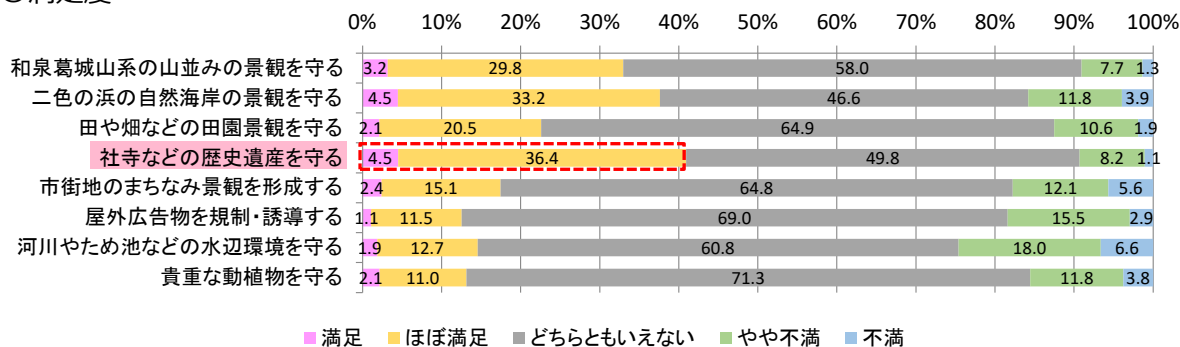
和泉葛城山の自然景観

市民アンケートでは、自然・景観の満足意向は、“社寺などの歴史遺産を守る”等が特に多くなっています。

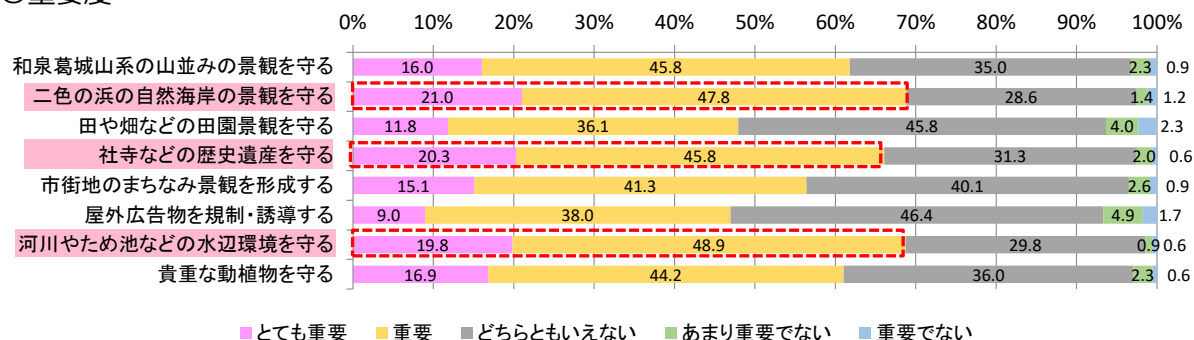
重要意向は、“二色の浜の自然海岸の景観を守る”、“河川やため池などの水辺環境を守る”、“社寺などの歴史遺産を守る”等が特に多くなっています。

■ 自然・景観の取組みについて（市民アンケート）

○ 満足度



○ 重要度



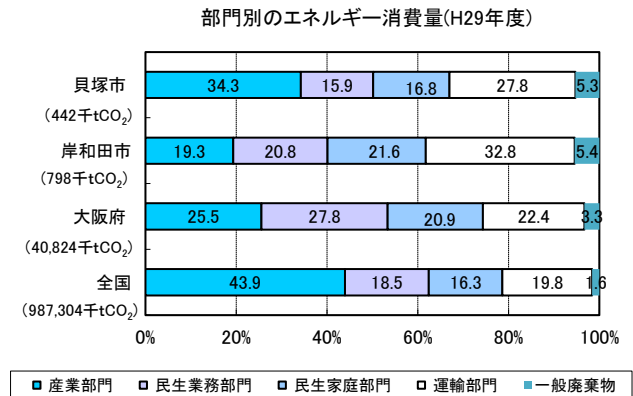
項目別課題（3）2） 景観の保全と新たな創造

自然景観や歴史景観等の保全と新たな景観の創造に向けて、市民との協働のもと、特色のある景観を都市づくりに活かしていく必要があります。

3) 環境保全について

本市のエネルギー消費量は、産業部門が約 34%、運輸部門が約 28%と、これら部門が全体の 6 割を占め、大阪府平均と比較して、特に産業部門、運輸部門の割合が高くなっています。

市民アンケートでは、環境の不満及び重要意向は、“生活排水対策などによる河川などの水質浄化”、“環境との調和に配慮した道路や河川などの整備”が特に多く、重要意向は、“ごみの減量化・再資源化の促進”も多くなっています。

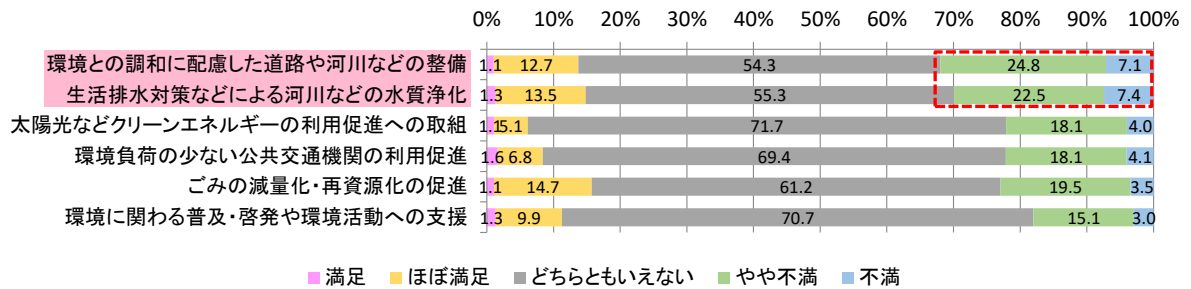


資料：部門別 CO₂ 排出量の現況推計（環境省）

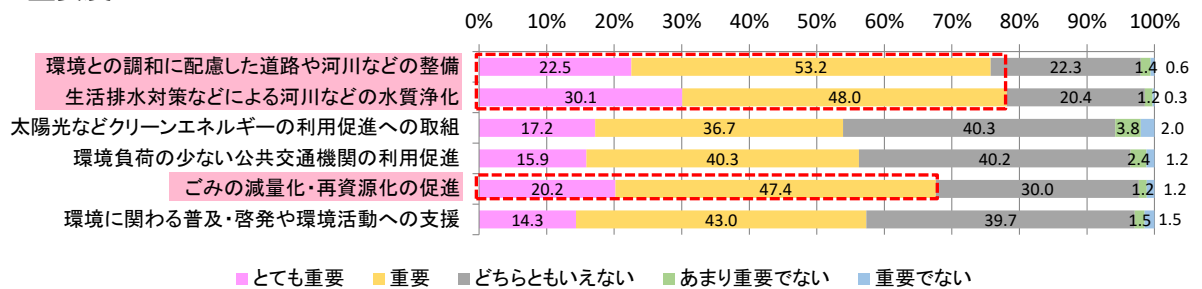
tCO₂：温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算値）。温室効果ガスは種類ごとに温室効果が違うため、二酸化炭素だった場合の温室効果に換算をして計算を行っている。

■ 環境の取組みについて（市民アンケート）

○満足度



○重要度



項目別課題（3）3） 脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進

公共交通の利用促進や都市施設整備に係る低炭素化への配慮をはじめ、ごみの減量化・再資源化、など、脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策を推進する必要があります。

【（３）地域資源、地域環境に係る項目別課題】

- 1) 自然環境や歴史的資源の保全と活用
- 2) 景観の保全と新たな創造
- 3) 脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進

課題（３） 公民連携による都市の魅力の向上

都市づくりの課題の体系

